

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3771500430
法人名	富士サービス株式会社介護部門
事業所名	グループホーム富士
所在地	香川県綾歌郡宇多津町2643番地3 (電話) 0877-49-5817

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年11月27日	評価決定日	平成20年1月28日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年4月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 6人、非常勤 2人、常勤換算 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,500円	その他の経費(月額)	15,750円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	200円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月27日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	76歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	林内科呼吸器科医院、尾崎歯科、聖マルチン病院、五色台病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

一車線幅の道路を挟んで立つ家並みの中にあり、落ちついた平屋のホームである。ホームの内部は明るく、くつろげる雰囲気づくりがされ、設立者の「利用者の立場に立った暮らしの場を」との理念より開設され、運営されている。職員は明るく、笑顔で利用者に接し、少しでも個々の持てる力を持続させようと根気よく自立支援を図っている。職員育成にも積極的で、職員は働きがいを感じており、意欲的である。食材は新鮮な物を取り入れ、好みと栄養のバランスを考慮した献立により、利用者の参加も活用しながら、当番制で調理された食事を楽しんでいる。また、医療機関との連携も確保されており、安心した生活が送れる体制が整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、環境づくりの分野で玄関周りの改善課題があったが、玄関の改修も終了し、改善が図られている。また、管理者・職員は、改善課題に対して具体的な改善への取り組み姿勢がうかがえる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員が自己評価を行うことによって、業務の見直しの機会と捉え、全員での取り組み意欲がうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月ごとに開催されており、ホームの現状報告や取り組み状況についての意見交換が行われ、ホームのサービス向上に活かしている。現在、メンバーに、地域の自治会長の参加を要望しているところである。今後とも、地域に根ざしたホームの充実を図るためにも、協力いただけるよう依頼して欲しい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時にホームでの暮らしぶりや健康状態を伝え、家族からの意見、要望を聞くよう努めている、遠方の家族の場合は、便りにより情報を伝え、意見を伺っている。いただいた意見や要望には、管理者・職員が即検討し対応すると共に、記録を残して運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りに参加したり、敬老の日にはお祝い物を届けてくれる等の交流がある。また、中学生の体験学習を受け入れており、利用者の楽しみの機会になっている。しかし、日常的な地域との交流はあまりなく、今後、利用者が地域の馴染みの人々と暮せるように、連携を図るよう働きかけを期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者を支え、共に暮らすホームとして、実現可能で常に心がけたい4項目の理念を、独自で作らあげている。しかし、地域密着型サービスとしての理念に欠けているため、地域の中でのホームの理念を検討している。	○	地域の中で、利用者がその人らしく暮らすことの大切さを管理者や職員が認識して、理念の再考を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、理念を唱和すると共に、利用者のケアについてのミーティングで理念に立ち返り、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや秋祭りへの参加、敬老の日にお祝いに来てくれている。また、中学生の体験学習を受け入れている。しかし、日常的な地元の人々との交流はあまりない。	○	地域の人にホームを理解してもらい、日頃の交流を図ることは、地域に根ざしたホームとして、利用者が地域の中で暮らすことを支える橋渡しになると思われるので、根気よく地域との交流に努めて欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を十分理解し、全員で自己評価に取り組み、ホームのあり方の振り返りの機会として、改善にも取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月ごとに開催し、ホームの現状報告や取り組み状況等について話し合い、メンバーから意見をいただいている。しかし、地域密着のホームとして、メンバーに自治会長の参加を依頼したいと考えているが、行政からの指導等により実現していない。	○	地域に根ざしたホームを運営するうえで、地域の自治会長の協力は大切と思われるので、今後も、行政及び自治会長に働きかけて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から町の担当者と連絡をとり、ホームの便りを置いてもらい、広報に協力をお願いしたり、指導を受ける等、連携が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	少なくとも1か月に一度は、利用料金の支払いに家族が来られる機会に、暮らしぶりや健康状態等を報告している。また、遠方の家族の場合は、請求書に便りを同封して、近況報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、ご意見箱を設けているが、ほとんど利用されていない。家族の来訪時にいただいた意見は、管理者・職員で検討し、対応すると共に、記録に残して運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどないが、新しい職員を採用する時は、しばらく馴染みの職員と共に、ケアをするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修の受講機会を設けている。また、外部研修の複講や、問題となっている事例を取りあげて内部研修を行い、職員の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香川県グループホーム協議会に入会しており、会議や研修会時に同席者と交流する程度である。ホームとしても同業者との交流を図りたい要望があるが、近くに同業者がない。	○	同業者とのネットワークづくりは、ホームの質の向上を図る面からも大切と思われるので、今後、県グループホーム協議会の助力も得て、隣接する市の同業者とも連携をとり、交流の機会を持つよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの相談を管理者・計画作成担当者が受けた後に、本人がホームに来られたり、自宅へ訪問をして関係づくりをしてから、サービス開始につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、昔の料理の仕方や衣類の修理方法を教わったり、歌と一緒に盛りあがる等、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やしぐさの中に、本人の思いや意向を把握するよう努め、要望に添えるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃、利用者と接する中で意向を聞き、家族や関係者とも話し合い、職員と計画担当者が意見を出し合っ、個々の利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間に応じた見直し、及び、利用者の状態変化時は新たな計画を本人や家族と話し合い、職員、関係者と作成しているが、状態の変化があまりないような場合の見直し期間が、長くなっている。	○	介護計画の見直しを行うことは、利用者の細かな変化に添ったケアを行うために大切なことと思われるので、毎月の振り返りと3か月ごとの見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添い、買い物等、利用者の要望に応じ支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の医療を希望する場合は、受診時に職員が付き添っている、また、病状説明のときは家族の同伴を求めて、利用者の望む医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の要望により、開設以来、数例の看取りの経験がある。今後も、かかりつけ医や職員と十分話し合いを重ね、本人・家族の意向を十分聞き、全員で方針を共有するよう考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員からは、利用者のプライバシーを損ねるような態度や、誇りを傷つけるような言葉かけはみられない。また、記録物の取り扱い等について、個人情報保護の姿勢がうかがえる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活の流れを大切に、個々の利用者のペースに添えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	豆の皮むきや粉をこねる等、利用者にてできることを職員と共に行い、対面式の台所で料理のできあがる匂いに期待し、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2～3回の入浴となっているが、希望により、毎日入浴を楽しんでいる利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、読書、新聞のちらしでゴミ入れを折る等している。また、年末に向けて習字の練習をして、年賀状づくりに取り組む支援を計画している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の高齢化が進み、外出したがないことが多いが、近くの公園や保育所への散歩を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵をかけないことが、利用者、職員とも常態化している。帰宅願望の強い新しい利用者がある場合、短期間施錠することがあるが、職員は施錠に対する弊害について認識している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災・避難訓練は年2回、消防署の協力を得て、行っている。職員は緊急連絡方法を理解し、利用者の避難方法を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝は粥食、10時のおやつは少しボリュームを持たず等、栄養バランスや利用者の好みを考えて、栄養士の有資格者の介護士が献立を立てている。摂取量のチェック、水分摂取量も把握され、記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓辺に植えられた観葉植物を通して、適度な自然光がホーム全体に差し込んでいる。居間兼食堂には、食卓以外にあちこちに椅子が置かれ、飾り棚に昔懐かしい人形が飾られ、居心地よい共同空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類等は、備え付けられた押入れに整理され、各自好みのものを配置し、個々の利用者がその人らしく過ごせる配慮がうかがえる。		